

「紀要」刊行にあたって

仁愛大学学長 石 田 慶 和

平成13年4月に発足いたしました仁愛大学が、ここに大学紀要を刊行するのはこびになりましたことは、まことに喜びにたえません。

福井県と武生市の大きな援助と期待のもとに、仁愛大学は、心理学科とコミュニケーション学科とで構成する人間学部を設置し、新しい船出をいたしました。

学識経験の豊かな諸先生とともに、新進気鋭の若い研究者を迎えて、本大学は活気あふれる大学として出発いたしました。それをさらに大きく育成することは、大学設置に関係した者の共通の願いであります。

その一環として、研究のための機関誌を刊行することになりました。仁愛大学に属する先生方の積極的な参加を得まして、充実した紀要となりますことを切望しております。

仁愛大学の設立母胎であります仁愛学園は、創立以来すでに百年を越え、保育園・幼稚園・高等学校・短期大学を擁して、福井県教育界に大きな地歩を築いて参りました。その建学の精神は、我が国において初めて仏教を受容され、その後の日本文化の発展に大きな寄与をされた聖徳太子と、鎌倉時代に浄土教を通して日本人固有の仏教理解を確立され、日本人の精神生活を深められました親鸞聖人の導きに基づいています。学祖、禿了教師とそれを継承されたすみ女史は、この二人の聖者の遺訓を仰ぎつつ、多くの困難を克服して、学園の発展を、今日に至らしめられたのであります。

現在の我が国の教育の状況は、必ずしも満足すべきものではなく、多くの問題を抱えていると言ってよいでしょう。その原因の一つは、現代の人間が、自らの生きるべき基盤を見失っていることにあると思われまます。知識の増大や視野の拡大、生活の快適さなどについては、驚くべき進歩を達成しましたが、そのために多くのものを失ったことも、率直に反省しなければなりません。

私たちは、ここに、仁愛大学を創設して、こうした現在の日本の教育界が抱える問題の解決に一步でも近づきたいと願っております。そうした願いに、多くの研究者のご理解とご支持を得ることを期待いたしまして、本紀要刊行の辞といたします。